



# 中国西南民族史

---

## 6.南詔国後期の対外関係②



# 新たな対外関係への模索？

---

## ■ 南詔国の唐の領域以外への軍事遠征

832 驃国 (ひょう／ピュー)

(ミャンマー中部：イラワジ川流域)

835 彌諾国 (びだく)・彌臣国 (びしん)

(ミャンマー西部：アラカン州・チンドウィン川流域)

?? 女王国 (ラオス??)

?? 陸真臘・水真臘 (カンボジア)



# 新たな対外関係への模索？

- いずれも南シナ海・ベンガル湾への出口
- 時期的には**成都侵攻の直後**



この時期にあらためて東南アジア大陸部の陸上交易ルートを広域に把握しようとしている？

=唐-吐蕃関係の終息に際して、そこに自らの新たな存在意義を見いだそうとしている

(ただし、どこまで成功したかは疑問)



# 南詔王権の拠って立つもの

- この段階で「伝統的権威」を主張することは困難  
(『南詔徳化碑』でも閣羅鳳は「雲南王」(=皮羅閣)の息子, としか言っていない)  
(⇔大理国:蒙氏の継承者であることを強調)
- 「宗教的権威」の主張も9世紀前半まではなし  
(9世紀後半以降は仏教など……)
- 外権力からの承認  
→「雲南王」・「贊普鍾」・「日東王」・「南詔王」



# 王権の維持に外征が必要？

- 「カリスマ的権威」  
→ (唐・吐蕃との) 戦争による王の力の証明？
- 異牟尋の後半に対吐蕃遠征が終息  
⇔ 尋閣勸・勸龍盛・勸利盛の王権不安定
- 豊祐の代に持ち直す  
⇔ 成都侵攻, 東南アジア遠征  
↓
- 王権を支えるために外征を必要とする？ 東南アジア的  
王権？ (cf. O.W.Woltersの「マンダラ」論)



# ウォルターズ:「マンダラ」(maṇḍara)

- 東南アジアの前近代: 一般に王権が不安定  
→ 現在における有能な行動により王としての資質  
(特別な「靈魂の質」)を示し, 人を引き込む必要
- 未開社会のBigman, 「あっぱれな勇者」と  
東南アジア「国家」支配者の連続性
  - 支配は基本的に一代限り
  - 勢力範囲も伸縮
  - 官僚制・領域支配の観念が弱い



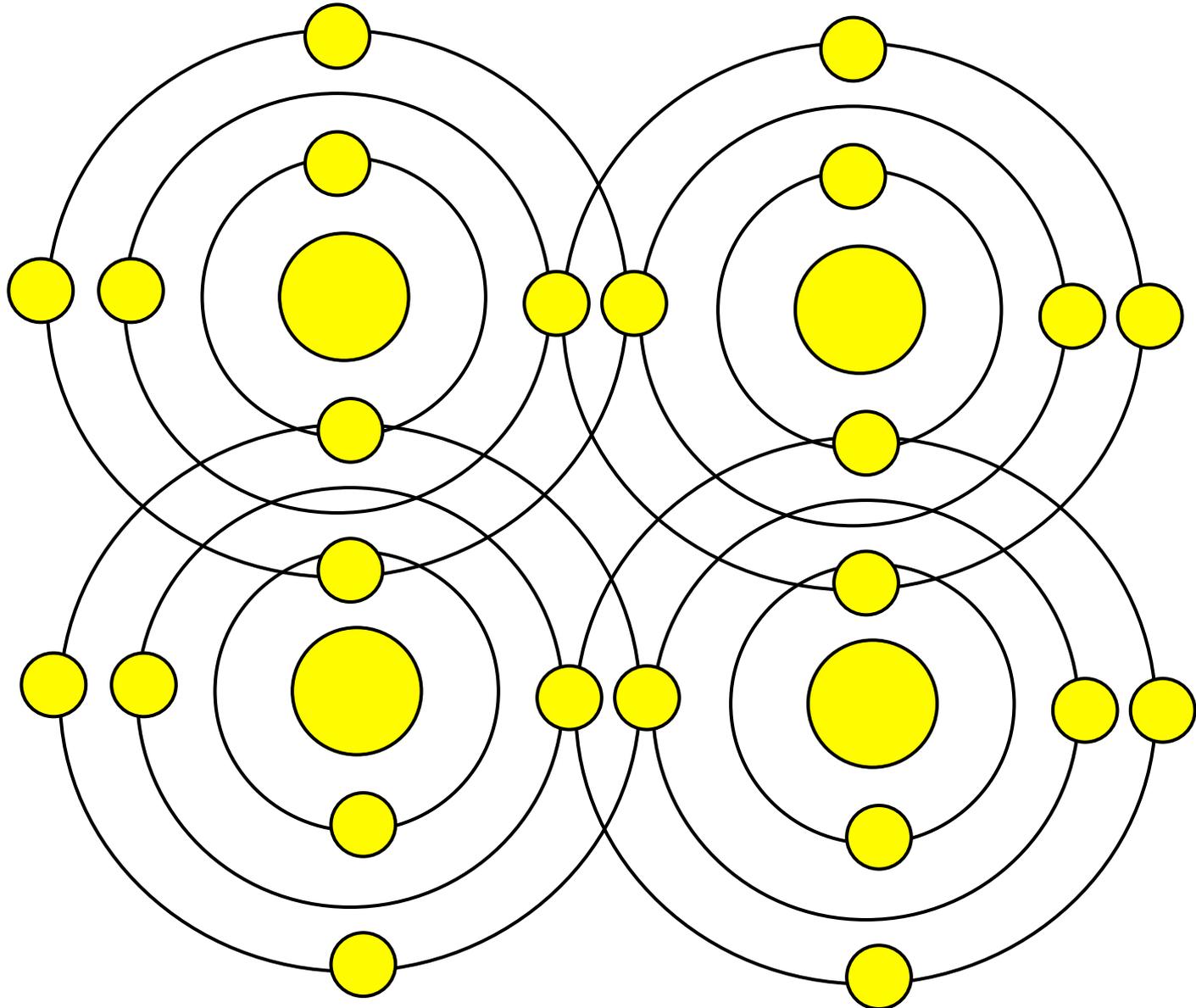
# ウォルターズ:「マンダラ」(maṇḍara)

---

- 特別な「**霊魂の質**」に  
ヒンドゥー教の神格などを結合し、  
**無限の支配力を主張**することで、  
何とか地方勢力を支配している**マンダラ**が、  
いくつもたがいに重なり合っている



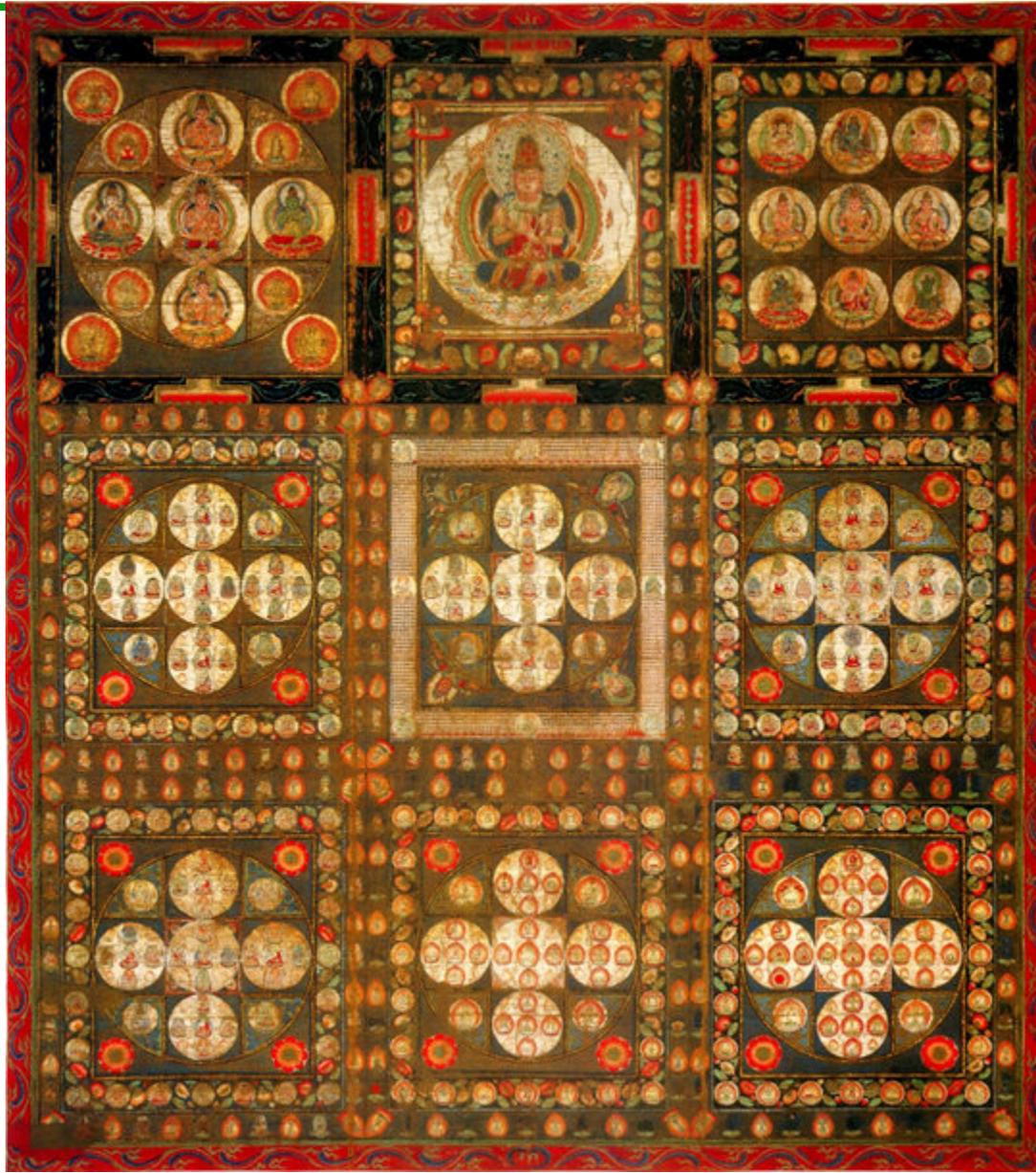
# 重なり合って存在する「マンダラ」





# 曼陀羅 (金剛界)

<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kongokai.jpg>  
141208確認 Public Domain





# 南詔王の「有能さの証明」

- 唐(や吐蕃)から高位の称号を受け、朝貢貿易など、有利な条件を引き出す  
→唐-吐蕃間の緊張関係があつてこそ？
- 対外遠征をおこなつて、より直接的に王の軍事的才覚を国内に示す
  - 唐蕃間の軍事抗争のいずれかに荷担するというやり方が通用しなくなつてきている
  - だからこそ唐に対して自ら侵攻する必要？



# それでも避けられない待遇低下

- 大中年間(847~859)の末  
成都留学生・朝貢使節(随員)の増加  
→西川節度使杜悰, 節減を上申→裁可される
  - このころ吐蕃王朝はすでに完全に瓦解  
=中国西南における政治・軍事的バランスの  
根本的な変動
- 軍事的緊張の消失から, 唐朝／西川節度使が  
南詔国を切り捨てはじめた



# 唐—南詔国関係の破綻

859 唐の宣宗崩御／同年 豊祐死, 世隆継ぐ

- 弔問にかんする行き違い
- 世隆の名が玄宗(と太宗)の諱を犯す

→ 唐朝は南詔王世隆の冊封を行わない

- 世隆は自立, 皇帝を自称し, 元号を建てる  
→ 唐朝の秩序からの離脱宣言

同年末 兵を派遣して播州(貴州遵義)を攻める

→ 以後十数年間にわたって戦争状態が続く



# 安南(交州)方面への遠征①

846, 858年にすでに「蛮寇安南」という記事あり  
(南詔国が関与しているかどうか不明)

860.12 段酋遷の率いる三万余の南詔軍(白衣没命軍), 安南都護府(ハノイ)を攻略, これを陥す  
(史料は安南都護李涿の現地住民に対する横暴が原因と説明)



861.6 唐軍, 安南を奪還

7 南詔軍, 邕州(広西南寧)を陥す



## 安南(交州)方面への遠征②

### 862.2 ふたたび安南侵攻

唐は中原(河南・江南)から三万の援軍を送りこれを防ぐ

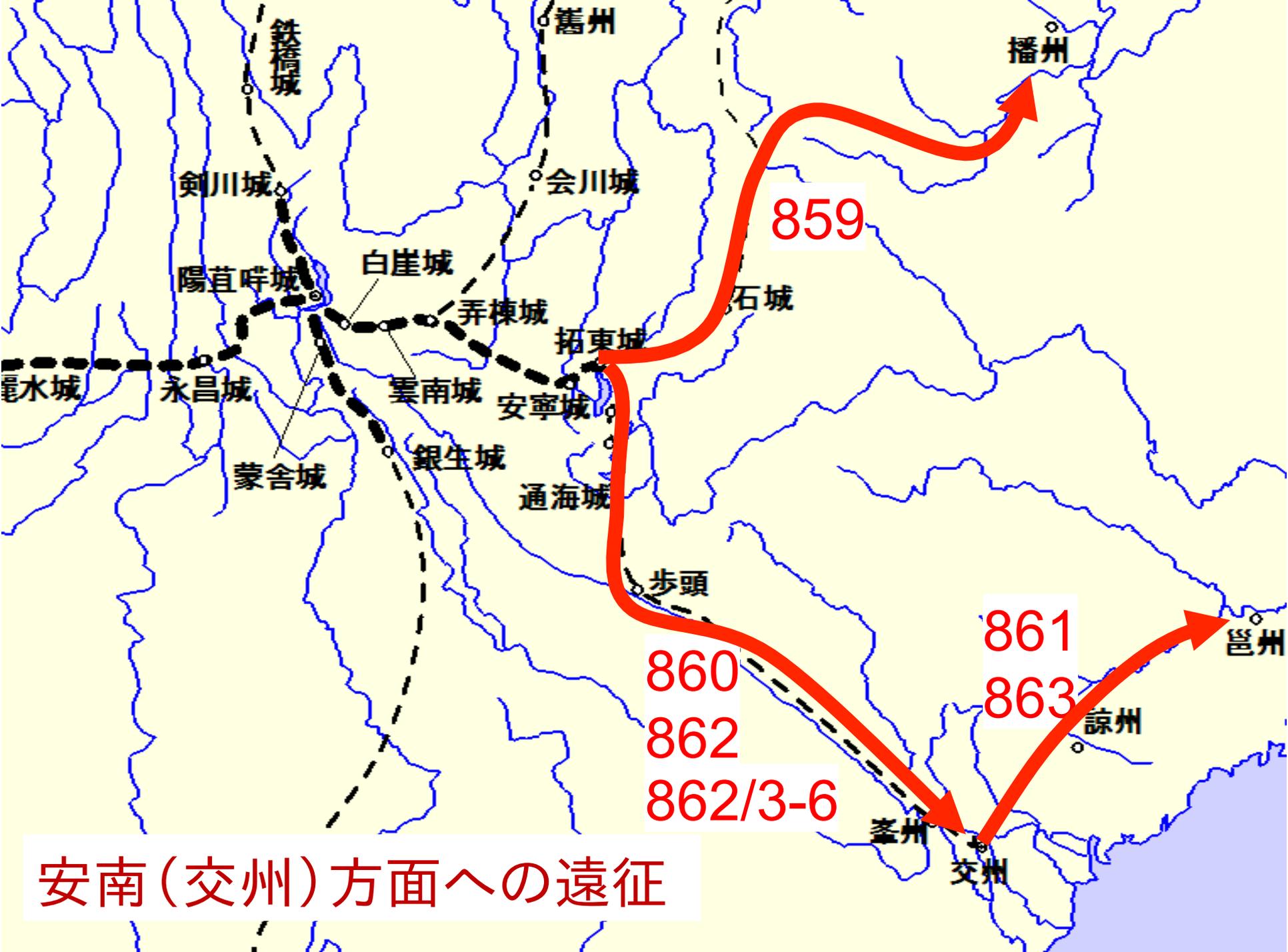
### 862.11 5万の南詔軍が交趾城を攻撃

### 863.1 交趾城陥落

- 経略使蔡襲の幕僚樊綽(『蛮書』の撰者), 印を携え紅河に浮び逃れる



866年7月まで3年半にわたり交趾城を占拠



859

861

860

863

862

862/3-6

安南(交州)方面への遠征



# 安南侵攻の主導的人物

- 段僞遷 (安南節度使)
- 楊思縉 (善闡節度使) (=柘東節度使)
- 楊忠義 (柘東判官)
- 楊緝思 (善闡節度使)
- 范昵些 (安南都統)
- 趙諾眉 (扶邪都統)
- 安南節度 (使) は **占領時に臨時設置** (cf. 鉄橋節度)
- それ以外は柘東節度関係者が多くを占める



# 高駘による交趾城奪還

864.7 驍衛將軍 (=禁軍) 高駘, 安南經略使となる  
峯州に布陣し, 南詔軍を迎え撃つ

866.6 高駘, 交趾城を包囲



11月 交趾城を回復, 段酋遷・朱道古らを斬る



(「土蛮の南詔のために郷導せし者」)



# 剣南西川(成都)方面での紛争

- 861.7 / 863.12~864.1 / 864.7 / 865.4  
嵩州攻撃
- 清平官董成ら成都に至る  
西川節度使李福との間で儀礼を巡って紛争  
(「驃信すでに応天順人, 我節度使に見えるにまさに  
抗礼たるべし」)
- 李福は董成を捕え, 投獄  
→866.3 新任の節度使劉潼, これを釈放



# 劍南西川方面への遠征①

869 楊旻慶を遣し, 董成の釈放を謝す  
→ 定辺節度使李師望, 楊旻慶を殺す



869.10 「南詔驃信旻龍傾国入寇す」

翌年正月 成都城下に至る

約一月間成都を包囲



成都城攻略は果たさず退く



## 劍南西川方面への遠征②

### 874 再び西川攻略

11月 大渡河を渡る

12月 黎州・雅州 を陥す

→唐朝は高駘を再起用

「河東、山南西道、東川の兵を發しこれを援く。なお天平節度使高駘に命じ西川を詣で蛮事を制置せしむ」

→南詔軍もこれを聞き退却(875.正月)

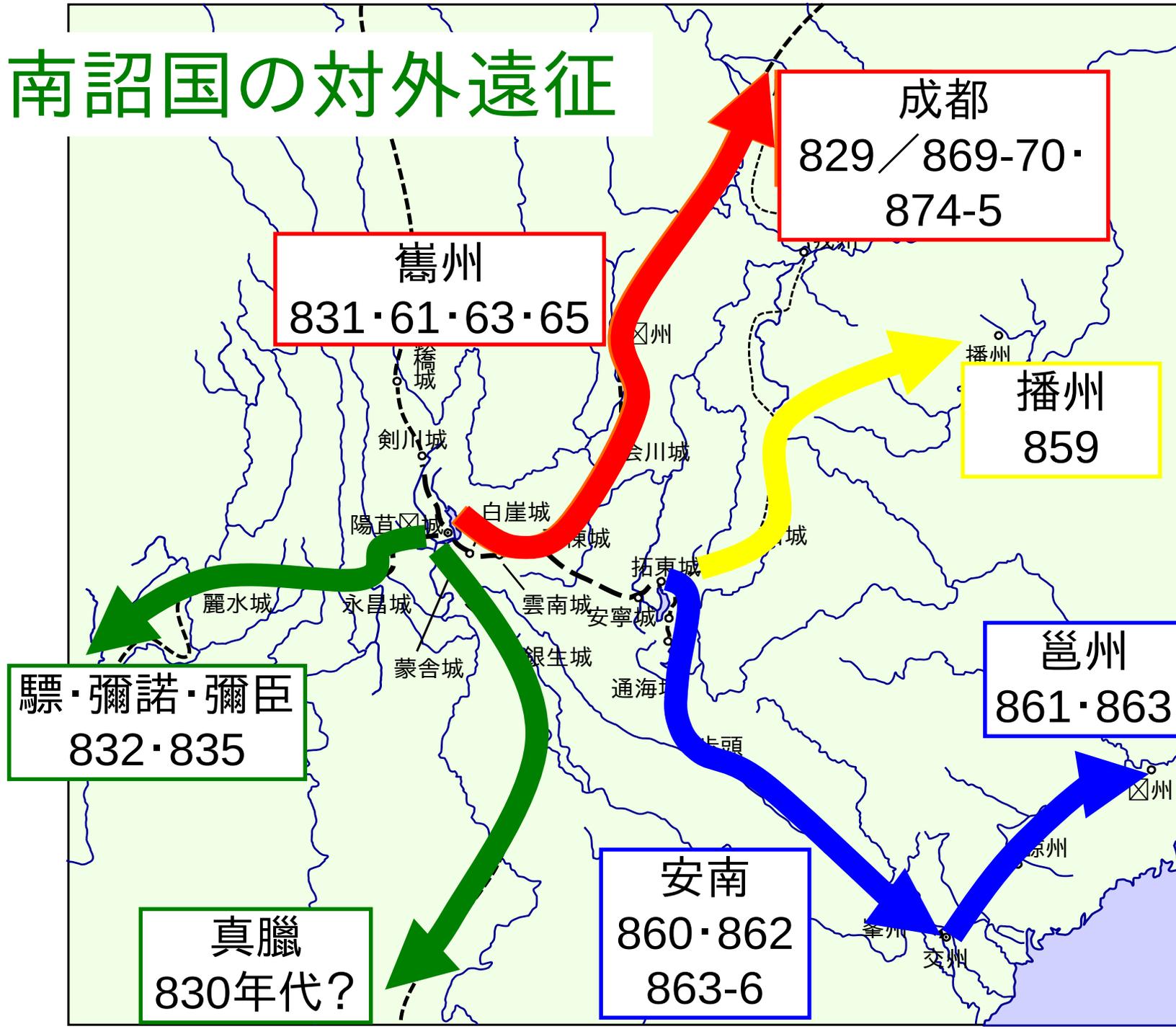
### 876 高駘に使者を送り講和を求める



# 西川侵攻の主導的人物

- 驃信酋龍(=世隆)  
→ 驃信は南詔王の称号(語義不明)
- 坦綽杜元忠  
→ 坦綽は清平官の別称  
『通鑑』「用事之臣」:清平官の中でも筆頭?  
「坦綽杜元忠, 日夜酋龍に全蜀を取らんことを教う」  
(『新唐書』南蛮伝中)
- 「清平官董成等十九人」(西川節度使への使者)

# 南詔国の対外遠征





# 対唐遠征の終息

## 877.2 世隆(酋龍)没し,子の隆舜(法)継ぐ

- 「辺患を為すこと殆ど二十年,中国これが為に虚耗す。而して其の国また疲弊す」
- 「酋龍年少(わか)くして殺戮を嗜み,親戚の己と異なる者は皆な斬,兵出でて寧歳無く,諸国更に讎忿,しばしば衆を覆し,国耗虚たり」  
→国内にも少なからぬ反対派?



# 講和使者の往来

877.2 陀西段嗟宝を嶺南西道(邕州)に遣わし  
講和を求める

878.4 酋望趙宗政を西川へ遣わし和親を請う

879.2 徐雲虔, 嶺南西道より善闡城(昆明)に至り,  
驃信(=隆舜)と会見

「驃信見大使抗礼, 受副使已下拜」

「驃信以木夾二授雲虔, 其一上中書門下,  
其一牒嶺南西道, 然猶未肯奉表称貢」



# 対唐遠征の動機・目的

---

※諸説あり, 定説なし

- 略奪戦争(物的・人的)
- 領土拡張
- 南詔王の権威低下を食い止める
- 王族蒙氏(=奴隸制段階)と  
支配下の白蛮(=農奴制段階)の間の階級矛盾



# 両方面(安南／成都)の経過から

## ■ 共通点:

直接の契機は唐軍の周辺民族に対する横暴



唐朝辺境における緊張感の喪失

(吐蕃の衰退・唐朝じたいの衰退)

## ■ 相違点:

両方面の直接指導者

- 安南: 善闡節度使とその管下(楊氏・段氏中心)
- 成都: 南詔王(世隆)の親征, 坦綽杜元忠



# 滇池地区の地位上昇

- (とくに安南侵攻の状況から)  
雲南東部(滇池地区)の地位上昇が見てとれる  
↑  
(雲南地方に古来存在した二つの中心のひとつ)
- 滇池地区で楊氏・段氏をはじめとする「大軍将」  
クラスの統治者が大きな力を持つ
- ただし南詔王が頻繁に滇池地区に滞在している  
事実もあり, 完全な「東西分裂」とはいえない



# 南詔国の唐に対する態度

- 世隆が皇帝号を称し, 建元(開戦前)
- 使者に「抗礼」を要求(戦中)
- 「表」「貢」など臣下→唐皇帝への形式を使わず, 唐と「兄弟」「舅甥」関係を要求(戦後)
- 公主降嫁の強い要求



かつての唐-吐蕃と同様の関係を指向  
(特に「兄弟」「舅甥」関係／公主降嫁)

軍事遠征はそのためのデモンストレーション?